

某家が博文公を泊めた家だったのである。父は昭和四十三年に他界したため、この家が何と言う家であったかを確かめていなかった。私はこの家をつきとめて博文公別府逗留の史実を明らかにしたい。都合でこの貴重な書を元の家に返してもと考えている。

ちなみに、井上馨侯が別府ゆかりの人物と言われるが、井上侯と伊藤博文公は、文久三年、共に密出獄して英国に渡り留学したと言う義兄弟の如き友人であった。

時限爆弾を除去した決死隊

研 修 部

昭和二十年三月十八日、大分・佐伯・柳浦の航空隊は、米第五八機動部隊から発進した艦上攻撃機による爆撃を受け、大きな損害を被った。これが大分県初の空襲であった。以後B29長距離爆撃機も加えた爆撃が喧伝されるなか、軍事輸送の幹線たる国鉄沿線には時限爆弾が多数投下され、列車の運行が阻害された。このため国鉄職員による時限爆弾除去死隊が編成され除去にあたった。下に掲載した「感状」は、二十年、中等学校学徒動員で国鉄第一線現場に派遣された後藤徳義さんが、大分、南大分駅間に投下され一週間にわ

たり列車の運行を阻んだ時限爆弾除去に決死隊として参加し、その任務を遂行したことに對して授与された感謝状である。

